

令和 4 年 4 月 15 日

(※受付番号)

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立今里小学校

校 園 長 名 : 松永 かおり

電 話 : 06-6981-8800

事務職員名 : 栗田 有加

申請者 校 園 名 : 大阪市立今里小学校

職 名 ・ 名 前 : 主務教諭 池内 一尊

電 話 : 06-6981-8800

研究コース
B グループ研究B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
661456

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究 (3 年目)
2	研究テーマ	「GIGAスクール構想」を想定した 遠隔授業による新しい授業スタイル創造			
3	研究目的	テーマに合致した目的を端的に記載してください。 ○遠隔授業を通して、児童が主体的にまとめた情報を発表・交流し、自分たちが収集した情報や作成した資料と比較・検討することでより深い学びへとつなげる。 ・今里小学校と中津小学校 ・今里小学校と他地域・他校 ○遠隔授業に必要な機器・環境整備をすすめる。 ○各校で実施した遠隔交流授業・遠隔合同授業について、実践交流し、効果的な授業展開について研究する。 ○児童の家庭とのオンライン授業を試行実施し、効果的なオンライン授業のスタイルについて検討する。			
4	研究内容	継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 昨年度までの取り組みを通して、遠隔授業のための機器・オンライン環境を効果的に整備することができた。また、遠隔授業を他校の教員とともに計画し、児童が様々な相手と交流する機会を持ったことで、多様な意見に触れることができ、深い学びへと結びついた。昨年度までの実践をもとに、新たな交流校とともにさらに事例の改善・充実を図る必要がある。効率よく進めていけるような打ち合わせの方法や計画の進め方を引き継いでいくことも必要である。 ○他地域・他校との遠隔交流・遠隔授業の実施 ・それぞれの地域・学校の特色や行事・活動の様子などを、児童がプレゼンテーションの形にまとめ、遠隔でつながった他校と互いに交流しあう。 ・教科における話し合い活動の単元を遠隔授業で他校と同時に進め、児童がより多くの意見を交流できるようにし、深い学びへとつなげる。 ・クラウド上で協働学習アプリを活用した、日常的な児童同士の情報交流を行う。 ・遠隔交流・遠隔授業に必要な環境整備や単元の指導計画を、他校教職員と協働で計画立案、実践することで、遠隔交流・遠隔行事の進め方を確立する。 ○学校外との交流 ・キャリア教育の一環として、園田学園女子大学と遠隔授業を行う。大学生は、小学生のころどんな職業に就きたかったのか、今現在はその夢がどのように変わっていったのかなどを交流することで、児童が自分のこれからの生き方を考える機会とする。 ・地域や企業と遠隔でつながることで、現地まで行くことが難しいところや、本校まで来校してもらうことが難しいところとも積極的に交流する。 ○学校と家庭をつないだオンライン授業の実施 ・緊急事態下や一定期間登校できない児童を想定し、家庭をつないだオンライン授業を実施し、効果的なオンライン授業の展開について検討する。			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 研究テーマ・研究の柱・実践内容・見込まれる成果等の検討 遠隔会議による研究推進年間計画作成 (今里小・中津小) (「チーム今里小」：他県離島の今里小) 等 ・学年・時期・単元・環境設定等</p> <p>5月 児童事前アンケート 合同会議による研究授業打ち合わせ ・単元構成・交流内容と方法・日程等 オンライン授業(学校と家庭)試行実施</p> <p>6月 交流開始(今里小・中津小) (「チーム今里小」) 等 遠隔交流授業・遠隔合同授業実践 企業との遠隔授業</p> <p>7月 園田学園女子大学と将来の夢についてキャリア教育 合同研究会(オンライン授業の進捗状況と授業展開について協議)</p> <p>8月 交流校訪問研修(「チーム今里小」で授業の視点を確認、現地教材研究)</p> <p>9月 遠隔交流授業・遠隔合同授業実践</p> <p>10月 遠隔交流授業・遠隔合同授業実践</p> <p>11月 研究発表会・公開授業(参加者へアンケート) 指導講評・講演会(桃山学院教育大学講師招聘)</p> <p>1月 遠隔交流授業・遠隔合同授業実践 企業との遠隔授業</p> <p>2月 教員・児童への事後アンケート実施・事前アンケートとの比較・分析・結果の考察 研究のまとめ</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 他校との交流によるコミュニケーション能力の向上</p> <p>《検証方法》 交流後の児童アンケートで、「他校との交流で考えを広げたり、深めたりできた」の肯定的回答を90%以上にする。「他校との交流で学んだことは何か」で具体的に記述する割合を90%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】 遠隔授業に関する教員の指導力向上</p> <p>《検証方法》 3年生以上で年間1回以上遠隔授業を計画実践する。実践後の教員アンケートで、「遠隔交流授業で主体的対話的な学習に効果があった」の肯定的回答を、研究メンバー、交流校とも80%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果3】 交流校においても遠隔授業に必要な環境を整備し、必要な場合に効果的に活用することができる。</p> <p>《検証方法》 交流校でのアンケートにおいて、遠隔授業の環境整備について「前年度より推進した」との回答を得る。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	【見込まれる成果4】			
		≪検証方法≫ 			
7	研究成果の共有方法	◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。 ○研究発表の日程・場所（予定）			
		日程	令和 4 年 11 月 28 日	場所	今里小学校
8	代表校園長のコメント	◆代表校園HPでの共有【必須】 他の共有方法を計画している場合は記載してください。			
		本研究は「がんばる先生支援」の3年次研究であり、今年度の交流では、交流内容や交流単元、交流方法において、さらにバージョンアップしたものを計画しています。1人1台端末環境が実現したことにより、これまでGIGAスクール構想のよりよい実現に向けて研究を進めてきました。今年度の研究では、これまでの研究成果を踏まえて、遠隔授業による新しい授業スタイルを創造し、他地域・他校との交流を重ね、学びあうことで子どもたちの深い学びへとつなげていきます。また、園田学園大学の大学生との交流を行い、キャリア教育の一環として位置付けています。 これらの研究内容は、令和4年3月に改訂された「大阪市学校教育ICTビジョン」のめざす子ども像である「ICT機器を活用しながら知識の理解の質をさらに高めるために、学習者用端末等を効果的に活用することにより、協働学習や個別学習の充実を図り、主体的に学び、自らの考えを伝えるときともに、他者の考えを理解し、多様な人々と協働して問題を解決しようとする子ども」を育てることにつながると考えます。 なお、本研究を進めるにあたっては、園田学園大学の堀田博史先生と桃山学院教育大学の木村明憲先生にご協力・ご指導いただく了承をいただいております。			